大本山永平寺

水は是れ身命なりと知る

大本山永平寺ご開山道元禅師さまの御真廟である承陽殿の脇には、白山連峰に連なる湧き水で、毎朝、道元禅師さまの御真前にお供えする霊水、白山水がございます。

白山は、富士山・立山と共に日本三名山のひとつであり、白山妙理大権現が守護神となっております。道元禅師さまが宋より帰国する前夜「碧巌録」を書写している時、白山妙理大権現が現れ手助けしたという伝承があり、道元禅師さまとの関わりは深く、永平寺の鎮守さまでもございます。

道元禅師さまは『典座教訓』という書物の中で、「水は是れ身命なりと知る」と示されておられます。

「水は私自身の命そのものである。ですから粗末にすることなく大切に扱わなければなりません」ということです。

梅雨の終わりを告げるこの七月、白山から流れ出る命の源である豊かな水に感謝すべく白山拝登を行います。標高二四五〇メートルにある白山室堂で登山者の安全祈願と遭難者慰霊供養諷経を行じ、大自然に抱かれて一夜を過ごし、翌朝、ご来光を拝むため、山頂（二七〇二メートル）を目指します。普段、山内から出ることのない修行僧にとっては楽しみにしている行持でもあり、一大イベントとして心待ちにしております。

大本山永平寺／０７７６-６３-３１０２

大本山總持寺

万灯供養

盆踊り大会

棚経回りとみ霊祭り

大本山總持寺では七月にお盆の行持を迎えます。

大祖堂に於いて一日から十一日まで、毎日お盆供養の施食会法要が行われ、多くの檀信徒が参詣に来られます。

施食会が終わりますと、十二日から十五日は棚経回りとなり、檀信徒のお宅に修行僧がお伺いし、お盆の供養をいたします。

特に、この春上山した一年目の修行僧にとっては、初めて本山の外に出て檀信徒の方々と親しく接する機会となり、貴重な経験を積みます。

また、十七日から十九日にかけては、「み霊祭り」が開催されます。み霊まつりは、大駐車場を会場に盆踊り大会と仏殿前参道での万灯供養を合わせて行われます。

今回で六十八回目となるこの行持は、横浜大空襲と鶴見駅構内鉄道事故の犠牲者を慰霊するために始められましたが、現在では東日本大震災犠牲者の方々の供養も行っております。

み霊祭りは三日間とも午後五時半から八時まで行われ、横浜鶴見にすっかり根付いた風物詩となって、毎年三万人を超える人出で賑わいます。

大本山總持寺／０４５－５８１－６０２１

曹洞俳壇

選・村松五灰子

潮干狩スカイツリーを股覗き

東京都　**野村　信廣**

評　股覗きは天橋立が有名。それが富士山であったり湖であったり。作者はふと潮干狩の手を止めスカイツリーを股覗きして見た。新名所と長閑な潮干狩をセットにして大景をまとめた楽しい一句となった。

花冷やドクターヘリの飛びたちぬ

静岡県　**望月かほる**

評　三寒四温の変化に体調を崩しがちの頃。花冷とドクターヘリに、不安と心配の心持ちが漂よう。句のまとめ方に無駄がなく締まりも良い。

◆**病む妻に貰ひて帰る甘茶かな**　千葉県　甲斐　勇

◆**釣人の等間隔に春の黙**　神奈川県　小野沢邦彦

◆**種籾を播いて安堵の父と酔ふ**　長崎県　崎田　定雄

◆**歩行器の春光しかと纏ふかな**　青森県　髙橋　敬子

◆**母の無き五度目の母の日が巡る**　大阪府　柏原　才子

◆**猫柳一軒残る鍛冶屋の火**　新潟県　大橋　恒次

◆**八十路今万朶の花の下に在り**　群馬県　山本　俊久

◆**じいちゃんの騙され上手四月馬鹿**　静岡県　小泉八千代

◆**孫五人みんな男の菖蒲風呂**　秋田県　小田嶌恭葉

◆**二度三度戻る話や日向ぼこ**　愛知県　中根　昂生

＊選者吟

越の国涼し道元寂円も

五灰子

＊作句小見

夏の暑さはスタミナに余裕のない私は苦手です。越前大野の山奥、寂円師開山の宝慶寺の境内に立ったとき、その荘厳さ、大杉と清しい空気が、とても印象的でした。この寺のことを初めて知ったのは司馬遼太郎の『街道を行く』でした。

曹洞歌壇

選・長澤　ちづ

大甕にどさっと入れし山桜造り酒屋の客のもてなし

宮城県　**鎌田登喜子**

評　造り酒屋には日本酒の製造過程を一般の人に見学させる所がある。そんな見学者をもてなすのに、山桜が甕に大胆に活けられていたのだろう。「どさっと」という語に勢いがあり、杜氏らの仕事ぶりも如何許りかと思わせる。

瀑布にかき消されゆく人の声岩場を舞台の無言劇見ゆ

鳥取県　**山本　浩一**

評　瀑布は滝のこと。「布」が舞台の緞帳を思わせ、無言劇へと誘う大事な役を担う。小滝ではなく轟音を発する大滝なればこそ声が消される。見下ろす作者の見立てがユニークだ。

◆**左手を右手の上にのせて聞く灯りゆれをる本堂に坐し**

山梨県　北村　富子

◆**遥かな日仕立てし着物そのままを夫の法事に袖通したり**

愛知県　深谷ハネ子

◆**腰まがるそんな生き方したんだねわたしの横の影法師言ふ**

詠み人知らず

◆**今日の月なんて眠さうなんでせういまにも目蓋閉づるがに見ゆ**

福岡県　三吉　誠

◆**早起きし散歩をすれば農家より手に余るほど蕨を貰う**

東京都　野村　信廣

◆**ふるさとに四人姉妹の雛をれど母の在さぬ家はさびしき**

山形県　菊池　恵

◆**詠讃歌のけいこに遅れし友のそば牛飼いて来しか堆肥の匂ふ**

島根県　門脇　順子

◆**弘法を偲ぶ浜麦昼顔の新芽征する憎き浜麦**

愛知県　小久保左門

◆**花季に母妻の忌のめぐり来ぬ手向けの数珠に花ふりかかる**

三重県　小阪　晋

◆**鎮魂の鐘のひびきのかすれゆく沖より雪の精たち舞ひ来**

岩手県　阿部　凞子

＊選者詠

樹齢二百年街道の松の切株に未だ噴く樹脂なにか訴う

ちづ

＊作歌小見

小久保氏の弘法麦ともいう浜麦の歌は「憎き」と言いつつ浜に生息する植物への目線が優しい。東日本大震災はまだ肌寒い時期のことだった。鐘の音のかすれが当時のうすら寒さを思い出させる阿部氏の歌。復興は進んでいるのだろうか。